

授業改善のイメージ（社会科）

本年度の研究テーマ 見通しと振り返りの往還による授業改善
～「思考力・判断力・表現力等」の評価

方法の充実～

授業改善を行う領域・内容

3分野を通して、論理的思考力をはたらかせた資料読解力を向上させ、様々な方法で表現する力

設定理由

近年、社会科において、資料読解力を活用し表現または説明をできることが様々な場面で求められている。一方で、生徒の実情は、データや資料を読解・分析することに苦手意識を感じている事が多く、求められているものと実情が乖離している状態が見受けられる。こうしたことから、社会科では、3分野（地理・歴史・公民）において、論理的思考力をもとにした資料読解力を向上させることで、読み取った資料を多面的・多角的な観点から根拠をもって分析、議論し、自己に落とし込み、様々な方法で表現する力を養っていきたいと考えこのように設定した。こうした力を育むことで、三年間で、社会を見取る主権者としての観点や社会を見渡すために必要な批判的思考力がつくことに期待している。

授業改善の方針

(0) 知識・技能の習得について

- 基礎用語の習得だけでなく、資料やデータを活用し、社会的事象の概念を理解する場の設定をする。

(1) 学習活動

- 「単元を貫く課題」をもとに、ポートフォリオ（振り返りプリント）を使用する。その際、小单元ごとに使った資料や分析したものをポートフォリオ（振り返りプリント）に集約させ、取捨選択を判断し、適切に表現するようにする。
- ワークシートにおいて、自分の考えと他者の考え、それを経てのまとめを位置づける。

(2) 評価方法

- ワークシートによる記述や学習活動による評価を行う。
- 「単元を貫く課題」に対するポートフォリオによる振り返りと「単元のまとめ」による評価を行う。

(3) 評価基準の設定

- 【B】社会的事象に対して、多面的・多角的に考察し、表現できているか。
- 【A】社会的事象に対して、多面的・多角的に考察し、他者の意見などを自分の考えに取り入れ表現できているか。

	前 期		後 期
＜二年生＞	世界の諸地域 【資料読解力】	古代の日本 【資料読解力】	世界の諸地域 【表現力＝書く力】
			中世の日本 【プレゼンテーション力】
＜二年生＞	日本の諸地域 【資料読解力】	近世の日本 【資料読解力】	日本の諸地域 【表現力＝書く力】
			近代の日本 【プレゼンテーション力】
＜三年生＞	現代の日本 【資料読解力】	個人の尊重と日本国憲法 【資料読解力】	現代の民主政治と社会 私たちの暮らしと経済 【表現力＝書く力】
			地球社会と私たち 【プレゼンテーション力】

前期の成果

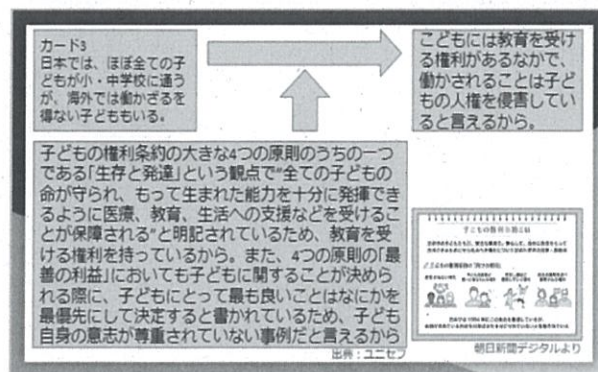
(0) 知識・技能の習得について

- ・ 各学年ともに、小テストや単元テストをこまめに行い、知識の定着を図った。また、小単元の中で必ず「課題」を設け、そこに必ず根拠となるものを示すことを習慣づけていった。
- ・ 思考ツールや協働学習などを活用し、論理的思考のレベルが前期末には大幅に向上した様子がワークシートなどからも見とれた

(1) 学習活動

- ・ 単元を貫く課題を必ず設定し、それを、単元のまとめで資料やデータを明らかにして、まとめることが出来ていた。3年生の第2章「個人の尊重と日本国憲法」においては、トゥールミンモデルを活用し、自分の主張を、単元で使用した資料やデータなどを活用し、理由や根拠をもって論理的に説明する事ができた。

(資料)



(2) 評価方法

- ・ ワークシートやポートフォリオ、単元まとめのレポートなど総合的に見取ることができた。

(3) 評価基準の設定

- ・ 基準の設定は各学年で行うことが出来たが、検討の余地があるとなった。

前期の課題

(0) 知識・技能の習得について

- ・ 中位層から下位層へのフォローや補充学習の必要性がある。
- ・ 知識や技能を身につける必然性を導入時などに行う必要がある。

(1) 学習活動

- ・ 「単元を貫く課題」に関しても、なぜそれを考える必要があるのかといった必然性や様々な面や角度から考えるための手立てを計画的に準備する必要があると感じた。

(2) 評価方法

- ・ 多面的・多角的な視点をどの単元で与え、考えさせるべきなのかを考える必要がある。

(3) 評価基準の設定

- ・ 単元計画をしっかりと立て、評価する観点やポイントを適切に設定する必要がある。
- ・ タテ持ちをしている事から、教科部会などで単元計画や評価のポイントなどをすり合わせるなど、共通理解を図る必要がある。

後期の成果

(0) 知識・技能の習得について

- ・ 1年生では、地理分野において、アジア州の単元で「工場進出をどこで行うか」考えさせる中で、必要な情報を自ら判断して収集し、適切な場所を多面的多角的に考える場面を設定できた。
- ・ 2年生では、地理分野において、中部地方の単元で「なぜ、中部地方の各県は特徴的な産業が発展しているのか」を考えさせる中で、生徒自ら情報を収集し、まとめを発表する場面を設定できた。
- ・ 3年生では、公民分野において、現代の民主政治と社会の単元で「模擬選挙」や「模擬裁判」を最後に行うにあたり、必要な知識と持つべき視点を様々な事例から考える場面を設定できた。

(1) 学習活動

- ・ ルーブリックプリント（振り返りプリント）において位置づけた。
- ・ ルーブリックプリントを使い、毎時間ごとに自ら設定した課題を達成していけるような活動を設定した。
- ・ ワークシートの中で、毎時間「課題」を設定し、自ら考える事とグループで考える事と全体で考える事を設定した。多様な考え方や様々な視点で考える活動として毎時間設定した。

(2) 評価方法

- ・ ICT 端末を活用し、思考の流れや根拠となる資料を何にしたかを見取れるよう工夫した。
- ・ ICT 端末を活用し、使用した資料を明示させたり、グループ内で発表したりして相互に評価できるように工夫した。
- ・ ワークシート内にある「課題」への個人の考えや他者との対話や全体共有においてどのような変容があったかを見取る形を実践できた。

(3) 評価基準の設定

- ・ 単元を見通した計画を作成し、「単元を貫く課題」を軸に設定し、実践することが出来た。
- ・ 1枚ポートフォリオを活用し、小単元での評価を見取ることが出来た。

後期の課題

(0) 知識・技能の習得について

- ・ 低学力層への支援や手立てを計画段階から練る必要がある。
- ・ ルーブリックとして単元の最初に評価基準（考える視点や身につけて欲しい力）を示すこと。

(1) 学習活動

- ・ 様々な事象に対して、生徒から疑問を持ち、課題を考える必然性を追究する必要がある。
- ・ 資料やデータを見るポイント（出所や信用性、妥当性など）を身につけさせる必要がある。

(2) 評価方法

- ・ 形成的評価と総括的評価の場면을適切に設定する必要がある。社会科においては、総括的評価でみていく場面が多いように感じるため、改善の必要がある。
- ・ 形成的評価においては、しっかりとした評価基準や見取り方などを事前に策定しておく必要がある。

(3) 評価基準の設定

- ・ ルーブリックを基にした、ぶれない評価基準を作成する必要がある。
- ・ 量で評価すると文章が書ける生徒の評価が高くなることから、文章量で評価するのではなく、生徒の変容や活用するデータや資料の判断理由や根拠などを質的なもので評価することが今後の課題である。

来年度に向けて

- ・ 社会科としてつきたい力の明確化をし、単元計画の軸とする必要がある。
- ・ 評価基準の A と B を明確にする研究を進めていく必要がある。

作成者：大場 将公（おおば まさひろ）・中島 将宏（なかしま まさひろ）

社会科学習指導案

2024年 5月 25日 (火) 6限

3年D組(40名)

指導者 大場 将公

1 単元名 第一章 現代社会と私たち (1) 私たちが生きる現代社会と文化の特色

2 単元設定の理由

(1) 教材について

- ・「現代社会と私たち」は、持続可能な社会づくりに向け、「①グローバル化」、「②少子高齢化」、「③情報化」、「④文化」の4つに分けられ、それらが現在と未来の政治や経済、国際関係に与える影響を追究する活動を通して、資質・能力を育成する単元である。現代社会の日本では、様々な課題が山積しており、持続可能な社会に向け、その現状や課題を考察することで、我が国の今後や展望を考え、深めることに適した単元である。
- ・本単元においては、現代社会がかかえる諸課題を、現在と将来の政治や経済、国際関係にてらしあわせ、それらが与える影響などを考察し、持続可能な社会づくりににおいて有効なのかを資料やデータと関連付けたりすることを通して、多面的・多角的に考え、表現することを単元のねらいとする。
- ・日本の地理的知識(空間的広がり)や歴史的知識(推移や変化)に加え、そこで得た見方・考え方をもとに、日本が直面する現状と課題を主体的に考え、多面的・多角的な視点から、未来的思考で課題解決に向け、考えぬく姿を養うことができる教材である。

(2) 学習者について

- ・本学級の学習者は、社会科アンケートの調査において、「社会の学習が好きであるか」という質問に対して、肯定的に答えた学習者は93%(37名)であった。また、「社会の学習についてどのように感じているか」という質問に対しては、85%(34名)の学習者が「社会の学習は楽しい」と肯定的に回答した。
- ・一方で、社会科の学習について、約15%の学習者が心配や難しさを感じていることがわかる。社会科は好きだが、データや資料を読み取る事を苦手と感じていることや自分の考えをまとめることに困りを感じている事が要因として挙げられる。加えて、自分の意見を発表することに対しては、間違いをおそれたり、自信のなさからやや消極的な姿勢の学習者が見られる。
- ・また、「グループ学習と一斉学習はどちらが自分の学習に役立つか」という質問に対して、95%(38名)の生徒がグループ学習と答えている。理由としては、「わからないところの質問がしやすい」「いろんな人の意見が聞ける」「班で考えを深められる」などの回答が多かった。教え合いなどの活動には積極的に取り組むことができている、他者の意見を聞くことには意欲的な姿勢が見られる。こうしたことから、グループ学習を通して資料やデータを分析し、協働して課題解決に導く力を向上させていきたい。

(3) 指導について

- ・単元を貫く課題を設定することで、学習者が主体的に公民の学習に取り組めるようにするとともに、現代社会の見方や考え方を学び取ることが必要であることの意義を感じさせる指導をする。
- ・課題分析については、データや資料で読み取ったことをワークシートや思考ツールにまとめ、自分の思考を整理させる支援をする。その情報をもとに小グループでの活動で互いの意見を交流させ、見方や考え方を発信、共有させることで多種多様な考えを認め合う大切さを醸成する。
- ・自らの学びを、振り返りシートで積み上げ、考えの広がりや関連に気づき、学ぶことの必要性が高まることを促す。

単元プランシート（ 社会科 3年）

実施時期 6/25

単元名		現代社会の特色と私たち （1） 私たちが生きる現代社会と文化の特色
単元の目標		現代社会の特色について、位置や空間的な広がり、推移や変化などに着目して、課題を追究したり解決したりする活動を通して、次の資質・能力をつけることができるようになる。 ・現代社会の特色として「少子高齢化」・「情報化」・「グローバル化」などが見られることを理解出来るようにするとともに、諸資料から課題解決に向けた情報を効果的に収集しまとめる技能を身につける事が出来るようにする。 ・「少子高齢化」・「情報化」・「グローバル化」などが現在と未来の政治、経済、国際関係に与える影響について多面的・多角的に考察し、表現できるようにする。 ・文化の継承と創造の意義について多面的・多角的に考察し、表現できるようにする。 ・現代社会の課題に対して、持続可能な社会をつくるために必要な見方や考え方を主体的に追及し、現代社会に関わろうとする態度を養う。
評価 規 準	知・技	①日本が持続可能な社会を作っていくうえで、グローバル化や少子高齢化、情報化、文化などと向き合っていかなければならないことを理解している。 ②データや資料をもとに課題解決に必要な情報を効果的に収集する技能を身につけている。
	思・判・表	①日本の地理的位置や世界との空間的な広がりや時代推移や変化などに着目し、グローバル化や少子高齢化、情報化、文化などが現在や未来、また、政治や経済、国際関係などに与える影響を多面的・多角的に考察し、表現している。
	主体	①日本が行っている持続可能な社会づくりを考察する中で、見つけた課題を主体的に考え、現在だけでなく未来的思考を持って現代社会に関わろうとしている。

	学習内容	評価計画		
		知・技	思・判・表	主体
1次 (1時)	・単元を貫く課題の設定 「これからの日本で、私たちはどのように生きていくべきなのだろうか？」 ・現在の日本にある課題やこれから訪れる社会（グローバル化・少子高齢化・情報化）に関する未来的予測の資料やデータをエキスパートに分かれ収集する。 【課題把握】【情報・資料読解および収集】			①
2次 (2時)	・1次で得たデータを共有し、グローバル化の長所や短所、今後の展望について資料を抽出し、分析する。 ・貿易額の推移や訪日外国人などの資料をもとに今後の日本に及ぼす影響や変化について多面的・多角的に考察し、表現する。 【課題追究】【資料読解】	②	①	
3次 (3時)	・政府の方針や新聞記事をもとに、現在の日本が置かれている少子高齢化の状況を理解する。 ・1次で得たデータを共有し、少子高齢化が進行する	②	①	

	ことでの長所や短所，今後の展望について資料を抽出し，分析する。 ・分析したものを各自治体や国が行っている事例に照らし合わせ，多面的多角的に検証し，解決策を提案する。 【課題追究】【資料読解】			
4次 (4時)	・1次で得たデータを共有し，情報化の長所や短所，今後の展望について資料を抽出し，分析する。 ・内閣府の作成した「Society5.0」に関する映像を視聴し，それにとまなう情報社会がもたらす光と影の側面を考察し，表現する。 【課題追究】【資料読解】	②	①	
5次 (5時)	・科学技術の発展や宗教・芸術などの文化が私たちの生活に与える影響について理解する。 ・日本にある伝統文化や年中行事をどのように継承していけばよいかを考察し，表現する。 【ワークシート】	①	①	
6次 (6時)	・身近にある国際文化や世界に広がる日本文化をまとめ，それが及ぼす影響を考察し，表現する。 ・多文化共生社会を目指すためにはどのような視点や考え方が必要になってくるのかを理解する。 【ワークシート】	①	①	
7次 (7時)	・単元のまとめ ・学習したことを踏まえて，単元のまとめを作成する。 【課題をまとめ表現する】		①	①

●・・・学習状況を見取り，学習改善につなげる評価

○・・・観点別学習状況の評価につなげる記録に残す評価

評価基準	
B	A
現代社会の課題が現在の政治，経済，国際関係に与える影響について多面的・多角的に考察し表現出来ている。	Bに加え，他者の意見や詳細な考察を自分の考えに取り入れ，表現出来ている。

様式3 本時の指導

(1) 本時の位置づけ (3 / 7)

(2) 題材名 少子高齢化

(3) 本時のねらい

現代社会の特色である少子高齢化の今後について、少子化がもたらす様々な影響を分析し、意見交換する学習活動を通して、少子化に歯止めをかけるための解決策を提案することができる。

(4) 展開

◎は形成的評価

時間	学習活動	学習内容及び指導上の留意点	評価
5	1. 国の少子高齢化の動きと実情を把握し、ペアで意見交流 2. 本時のめあての確認	○前時までの学習を振り返り、本時のテーマが「少子高齢化」であることを確認する。 ○政府が打ち出している「異次元の少子化対策」と最新の合計特殊出生率や世論調査の結果を示し、ペアで率直な感想を伝え合う。 ○各所で少子高齢化が喫緊の解決必要性課題とされているのを確認する。 めあて：日本の少子化に歯止めをかけるための解決策を提案しよう。	
12	3. 少子化が進展することでの長所や短所を班で資料分析し、各班のジャムボードとワークシートに記入する。	○複数の資料に触れ、短所だけでなく長所にも気づかせるとともに、少子化の進展が自分たちの未来にも大きく影響していることを理解させる。 ○班ごとのジャムボードに長所と短所を整理してまとめる。個人でも、ワークシートにまとめる。	○【机間指導】情報の収集と読み取りについて指導 ○【ワークシート】読み取ったり、意見交換したものをまとめられているか
12	4. 資料とジャムボードを使い少子化に歯止めをかける解決策を策定する。	○各班の資料などを活用し、様々な視点や角度から少子化に歯止めをかけられそうな案を策定する。 ○その際に、どのような視点や角度に重点を置いて考えるかを大切に促す。	○【机間指導】 ○【ジャムボード】
12	5. 各班の考えを発表する。	○Google ジャムボードを活用し、各班の考えを1分以内でプレゼンテーションする。	
9	6. 各班が出した案の中で自分が支持する案を振り返りプリントに記入する。	○資料分析によって得られた、少子化の長所や短所を用いるとともに、この課題を克服するための考えを様々な視点や角度から振り返らせる。	◎【解決策の提案】(思考・判断・表現)
	振り返り：日本でこのまま少子高齢化が進展すると、深刻な労働力不足になり、生産力の低下や産業衰退が起こることが予想される。なので、私は、18歳までの教育費無償化の考えが良いと思います。資料から、子育てに経済的不安をかかえている人が多いことがわかり、この心配を無くすことで少子化に歯止めを書けられるのではないかと考えました。お金の面では膨大な額がかかりますが、長い視点で見ると人口増加や生産性の向上につながられ、少子化に歯止めをかけられると考えました。		

第一章 一節 「現代社会の特色と私たち」 3年()組()番 氏名()

単元を貫く課題「これからの日本で、私たちはどのように生きていくべきなのだろうか？」	
月 日 ()	タイトル (1) 持続可能な社会に向けて めあて【 】 【振り返り】持続可能な社会とは・・・
月 日 ()	タイトル (2) グローバル化 めあて【 】 【追究課題】 グローバル化によるメリットとデメリットとは何なのだろうか？ グローバル化の長所 (メリット) グローバル化の短所 (デメリット) 【振り返り】グローバル化が進展していくことでの私たちに与える影響とは・・・

月 日 ()	タイトル (3) 少子高齢化 めあて【 】	
	【追究課題】 少子化によるメリットとデメリットとは何なのだろうか？	
	少子化による長所（メリット）	少子化による短所（デメリット）
【振り返り】少子化に歯止めをかける解決策として私が考えたのは・・・		
月 日 ()	タイトル (4) 情報化 めあて【 】	
	【追究課題】 情報化によるメリットとデメリットとは何なのだろうか？	
	情報化による長所（メリット）	情報化による短所（デメリット）
【振り返り】情報化が進展していくことでの私たちに与える影響とは・・・		

A 評価

現代社会の課題が現在の政治、経済、国際関係に与える影響について多面的・多角的に考察し表現出来ていることに加え、他者の意見や詳細な考察を自分の考えに取り入れ、表現出来ている。

【振り返り】少子化に歯止めをかける解決策として私が考えたのは...

・子どもがいらっしゃる世帯や、子どもがほしいと思われている世帯への援助
→大学までの学費の負担（政府が学校に直接納めらる）や、保育センターのような
助けあえる場所をつくら、他の人材（外国など）で代用するのではなく、
→「少子化」を解決し子どもをふやす。支え合、て、協力する。

B 評価

現代社会の課題が現在の政治、経済、国際関係に与える影響について多面的・多角的に考察し表現出来ている

【振り返り】少子化に歯止めをかける解決策として私が考えたのは...

子育て世代の教育費を無償化していくこと。預託
料としても、社会全体として負担を減らすこと。子育て世代

社会科学習指導案

令和6年9月20日(金)

第4校時 13時10分～14時00分

2年B組 40名

指導者 中島 将宏

1 単元名 第三章 日本の諸地域 「地方創生に必要なものは何か」

2 単元設定の理由

(1) 教材について

- ・「日本の諸地域」は、内容のCの(2)である「日本の地域的特色と地域区分」で扱った事象を主要な考察の仕方として用い、空間的相互依存作用や地域などに関わる視点に着目して、地理的な事象をその他の事象と関連付けて、地域的特色や地域の課題とともに事象間の関連を理解し、多面的・多角的に考察できるようにする単元である。中国・四国地方は、中国山地や四国山地を境に山陰、瀬戸内、南四国と大きく分けて3つの地域に区分することができ、自然環境や産業の違いがある中でそれぞれ発展してきた経緯がある。また、交通網の整備によって地域間の移動も多く行われるようになってきた。しかし、近年は山陰や南四国の山間部の人口減少が著しく、今後の地域の存続が問われている。
- ・本単元においては、「②人口や都市・村落を中心とした考察の仕方」を中心として、中国・四国地方が抱える人口や村落の問題をそこに暮らす人々の生活や文化、産業と関連付け、地域の大きな課題であることを資料やデータと関連付けたり、各市町村が行っている取組を参考にしたりすることを通して、中国・四国地方にある様々な問題を多面的・多角的に考え、表現することができる。
- ・中国・四国地方の課題は日本全体の課題でもあり、そこで得た知識をもとに、日本が直面する現状と課題を主体的に考え、課題解決に向け粘り強く考えぬく力を養うことができる教材である。

(2) 学習者について

- ・本学級の学習者は、社会科のアンケート調査において、「知らない地域のことを知るのが楽しい」「想像していたイメージと違うことがわかることが楽しい」などの回答があり、新しい知識を知ることに関心を持つ学習者が多いと言える。単元テストや定期テストの結果を分析からも基本的な用語の習得や資料の読み取りができていない学習者が多い。
- ・一方で、「複数の資料を関連付けて読み取ることが難しい」や「根拠を示してまとめることが難しい」と回答をしている学習者も見られる。複数のデータや資料を読み取る事を苦手と感じていることや自分の考えをまとめることに困りを感じている学習者が一定数存在する。
- ・「グループ学習と一斉学習はどちらが自分の学習に役立つか」という質問に対して、94%(36/38名)の生徒がグループ学習と回答している。理由としては、「話しながら考える方が楽しい」「わからない所を社会が得意な人に聞ける」「自分と違う考えを聞けるのは参考になる」などの回答があった。互いに意見を言い合いながら課題に対して取り組む様子や聞く態度は意欲的で互いに高め合う姿が見られる。

(3) 指導について

- ・一つの事象を理解させるだけでなく、事象間の関連からみえる新たな視点を地理的な見方・考え方を意識させながら育てていく。
- ・課題分析については、RESAS や地域創生ポータルサイトで読み取ったことをワークシートや振り返りシートに記録し、スライドを使って自分の思考を整理させる支援をする。その情報をもとに小グループでの活動で互いの意見を交流させ、多種多様な考えを認め合う大切さを醸成する。
- ・自らの学びを、振り返りシートで積み上げ、考えの広がりや関連に気づき、学ぶことの必要性が高まることを促す。また、グループ学習を通して資料やデータを分析し、協働して課題解決に導く力を向上させていく。

単元プランシート (社会科2年)

実施時期 9月

単元名		日本の諸地域 (2) 中国・四国地方
単元の目標		中国・四国地方の地域的特色を理解し、そこに暮らす人々の生活や文化、産業と関連付けて、中国・四国地方の様々な問題を考え、表現することができる。
評価 規 準	知・技	①中国・四国地方の地域的特色を理解している。 ②問題解決に必要な資料を効果的に調べ、まとめる技能を身に付けている。
	思・判・表	①中国・四国地方において、人口、自然環境、産業、人々の生活の様子やそこで生ずる課題と結びつけて、多面的・多角的に考察、表現している。
	主体	①中国・四国地方のよりよい社会の実現を視野に、そこで見られる課題を主体的に追究しようとしている。

時間	学習内容	評価計画		
		知・技	思・判・表	主体
1	○中国・四国地方の地形や気候などの自然環境の特徴を理解する。 ○中国・四国地方の各地の人口推移を読み取り、過疎化や少子高齢化が進む地域であることを理解する。 ○国が進めるIT技術を活用した地方創生の考え方を理解する。 ・単元を貫く課題の設定 「地方創生には何が必要なのだろうか」	① 観察 ワークシート		
2	○中国・四国地方がどのように発展してきたか、産業と交通の視点から捉える。 ・工業について、瀬戸内海沿岸の工業地域の発展を自然環境の特徴と関連付けて理解する。 ・農業について、交通網の発達によって各地に出荷される作物への影響を理解する。	② 観察 ワークシート	① 観察 ワークシート	
3	○全国各地で行われている地域創生の取組を調べる。 ・地域創生ポータルサイトに掲載されている事例をもとに自然環境、産業、交通・通信の面から中国・四国地方でも活用できる事例を見つける。		① スライド	
4	○単元を貫く課題について、今後の中国・四国地方について考える。 ・前時にみつけた事例が、どうして中国・四国地方でも活用することができるのか、地域的特色を踏まえて考察する。		① スライド	① ワークシート
5	○単元のまとめを行う。 ・前時に作成したスライドを完成させる。 ・振り返りシートに単元のまとめを記入する		① スライド 振り返りシート	

○...記録に残す評価 (総括的評価) ●...記録に残さない評価 (形成的評価)

評 価 基 準 (思考・判断・表現について)	
B	A
中国・四国地方が抱える様々な課題を多面的・多角的に考察し、表現している。	中国・四国地方が抱える様々な課題を多面的・多角的に考察し、自分なりの提言を踏まえて表現している。

様式3 本時の指導

(1) 本時の位置づけ (4/5)

(2) 題材名 日本 の諸地域 中国・四国地方 地方創生に必要なものは何か

(3) 本時のねらい

中国・四国地方の今後について、地方創生の取組を分析し、中国・四国地方に適合しうるものを多面的・多角的に考察する活動を通して、よりよい地域の在り方をスライドにまとめることができる。

(4) 展 開
◎は形成的評価

時間	学習活動	学習内容及び指導上の留意点	評 価
10	1. 前時までの内容を振り返る。 2. 本時のめあての確認	○地方創生ポータルサイトに掲載されている事例を基に、中国・四国地方でも取り組むことができる事例を探すことを伝える。 ・本時の流れを伝える。 めあて ：中国・四国地方の地方創生のために活用できる事例を考えよう	
15	3. 前時にまとめた事例の中から1つ選び、中国・四国地方でも取り組める事例をスライドに示す。	○振り返りシートにまとめた中国・四国地方の地域的特色（自然環境、産業、交通・通信）や前時に作成したスライドを参考にして、中国・四国地方でも取り組める事例を一つ選ばせる。 ・選んだ事例は中国・四国地方の山陰、瀬戸内、南四国の中で、どの地域で取り組む方が効果的かも示させる。 ○chromebook のスライドに自身の考えをまとめさせる。 ・多面的・多角的に考察をするように促す。 ・活動が滞っている学習者には机間指導の中で助言を与え、支援をしていく。	◎【スライド】
15	4. 各班で自分の考えを発表する。	○各班（4人班）で自分の考えを発表させる。 ・持ち時間は1人2分を基本とする。 ・発表はどのような視点で事例を選んだのかを聞く人に伝わるように説明させる。 ・聞く側は発表者がどのような視点で事例を選んだのかワークシートにメモを取りながら聞かせる。 ・代表者数名に全体発表をさせ、多面的・多角的に考察しているところを評価し、自分の考えも多面的・多角的に考察できているか振り返らせる。	◎【発表】 ○【ワークシート】 (主体)
10	5. 振り返りを行う。	○他者の発表を聞くことで得た新しい視点や新たに浮かんだアイディアをもう一度考えさせ、スライドの修正をさせる。	○【スライド】 (思考・判断・表現)

(5) 本時の評価基準

評 価 基 準（思考・判断・表現について）【本時】	
B	A
中国・四国地方で取り組むことができる事例を、地域的特色を踏まえて複数の面や複数の角度から考察し、スライドにまとめられている。	中国・四国地方で取り組むことができる事例を、地域的特色を踏まえて複数の面や複数の角度から考察し、自分なりの提言を含めてスライドにまとめられている。

単元プランシート (社会科 3年)

実施時期 10月～11月

単元名		第3章 現代の民主政治と社会 3節 地方自治と私たち
単元の目標		地方自治の基本的な考え方について、対立と合意、効率と公正、個人の尊重と法の支配、民主主義などに着目して、地方自治の課題とその解決策について多面的・多角的に考察、構想する活動を通して、次の資質・能力をつけることができるようになる。 - 地方自治の基本的な考え方、地方公共団体の政治の仕組み、住民の権利や義務について理解出来るようにするとともに、諸資料から課題解決に向けた情報を効果的に収集し、まとめる技能を身につける事が出来るようにする。 - 対立と合意、効率と公正、個人の尊重と法の支配、民主主義などに着目して、民主政治や国の政治の在り方、地方自治の課題とその解決策について多面的・多角的に考察、構想し、表現出来るようにする。 ○民主政治と政治参加について、現代社会に見られる課題の解決を視野に主体的に社会に関わろうとする態度を養う。
評価 規 準	知・技	○地方自治の基本的な考え方について理解している。その際、地方公共団体の政治の仕組み、住民の権利や義務について理解している。
	思・判・表	○対立と合意、効率と公正、個人の尊重と法の支配、民主主義などに着目して、民主政治や国の政治の在り方、地方自治の課題とその解決策について多面的・多角的に考察、構想し、表現している。
	主体	○民主政治と政治参加について、現代社会に見られる課題の解決を視野に主体的に社会に関わろうとしている。

	学習内容	評価計画		
		知・技	思・判・表	主体
1次 (1時)	- 単元課題の設定 「大分県の課題を解決していくために、必要な政策を立案し、投票しよう。」 - 地方公共団体が行う政治について国の政治と比較し、役割や仕組み、地方自治の原則などを理解する。 - 単元課題について触れ、自分たちが住む大分県が抱えている課題を出し合い、まとめる。 【課題把握】	●		
2次 (2時)	- 地方公共団体が抱えている課題について理解する。 - 大分県の財政状況や人口推移など、最新のデータを提示し、このままでは自分たちの住む大分県が危機的な状況になることを認識させ、単元課題を考える必然性を高める。 - 自分たちが住む大分県の課題について、統計局 HP や大分県 HP、RESAS などを用いて調べ、多面的・多角的に考察しワークシートにまとめる。 【課題追究】【資料読解】	●	○	

3次 (3時)	・住民が地方公共団体の政治に密接にかかわっており、そこへ参加する方法について理解する。 ・各個人が調べた、大分県が抱える課題をグループで共有し、グループごとに課題解決に必要な政策を立案し、ワークシートにまとめる。 【課題追究】【表現】	●		●
4次 (4時)	・前時でまとめた意見をもとに、google スライドに政策案をまとめ、次時のプレゼンテーションに向けて準備を行う。 【課題発表】【表現】		●	●
5次 (5時)	・各グループ3分の持ち時間で、「大分県に必要な政策」をプレゼンテーションする。 ・聞き手は、「政策の具体性」・「政策の実現可能性」・「予算の妥当性」・「課題との整合性」という4観点で評価する。 ・全てのグループ発表が終了したら、単元のまとめとして、自分自身が考える、大分県の今後に必要な政策を選び、その理由をまとめる。 【課題をまとめ表現する】		○	○
6次 (6時)	・単元テストを行う。 ・前時の投票結果を発表する。	○	○	○

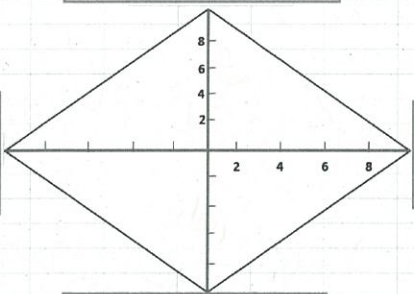
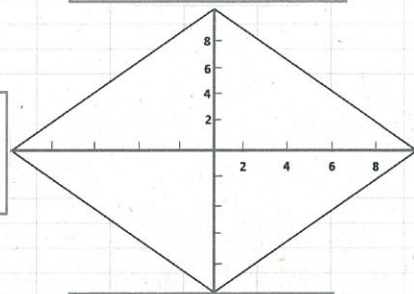
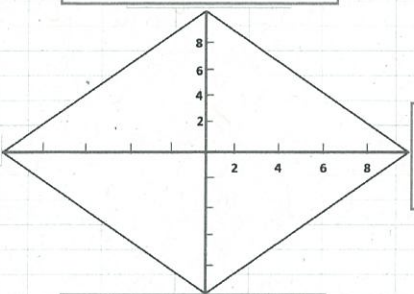
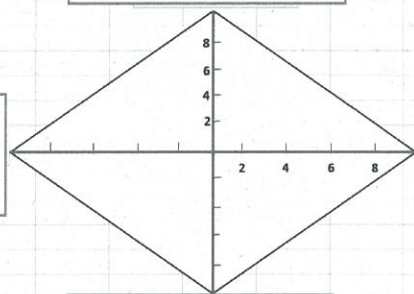
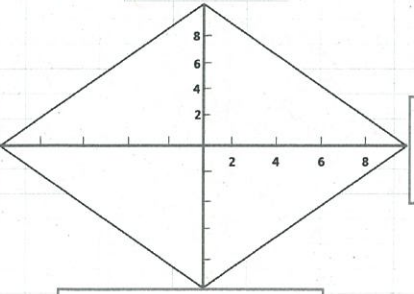
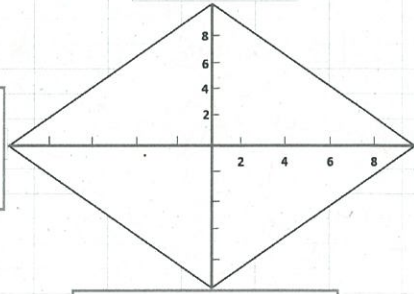
●・・・学習状況を見取り、学習改善につなげる評価

○・・・観点別学習状況の評価につなげる記録に残す評価

評 価 基 準	
B	A
学習した内容や資料，データを根拠として，課題解決に必要な方策を，多面的・多角的な視点から考察し，表現する事が出来ている。	学習した内容や資料，データを根拠として，課題解決に必要な方策を，多面的・多角的な視点に加え，効率と公正の視点から考察し，表現する事が出来ている。

3年（ ）組 （ ）番 名前（ ）

めあて 各班の考えた政策を4つの観点から評価し、大分県に必要な政策を決定し、投票しよう。

1 班 政策の具体性 課題との 整合性  予算の 妥当性 政策の実現可能性	2 班 政策の具体性 課題との 整合性  予算の 妥当性 政策の実現可能性
3 班 政策の具体性 課題との 整合性  予算の 妥当性 政策の実現可能性	4 班 政策の具体性 課題との 整合性  予算の 妥当性 政策の実現可能性
5 班 政策の具体性 課題との 整合性  予算の 妥当性 政策の実現可能性	6 班 政策の具体性 課題との 整合性  予算の 妥当性 政策の実現可能性

A 評価

学習した内容や資料，データを根拠として，課題解決に必要な方策を，多面的・多角的な視点に加え，効率と公正の視点から考察し，表現する事が出来ている。

まとめ 私は 【 Ⅰ 】 班の政策が今後の大分県に必要と考えました。

【政策名： 野菜健康プロジェクト】

⊕ (理由)

大分県が抱える問題として、私が調べてわかったのは、少子高齢化が大幅に進み、人口が減ってきている事と、それに伴う財政問題がありました。この問題を解決するために自分の班が提案したバックプロジェクト大分も考えましたが、より多くの県民に影響を与え、健康寿命の向上といった高齢者の層にも、若い人の健康維持という観点からも良い政策だと考えたからです。また、財政的な負担も少なく、今ある財源を有効活用して出来る可能性（実現可能性）が高いため、この政策を選びました。

B 評価

学習した内容や資料，データを根拠として，課題解決に必要な方策を，多面的・多角的な視点から考察し，表現する事が出来ている。

まとめ 私は 【 Ⅱ 】 班の政策が今後の大分県に必要と考えました。

【政策名： 国際都市おおいの計画】

⊕ (理由)

大分県には、観光客もたくさんくるし、APUもあるため外国人の方と非常に親密であることが強みである。データにも示してあったように、年間100万人が訪問する大分県ならではの強みを生かして、国際化することによって日本人である私たちにとっても、やってくる外国人にとってもたくさんのメリットがあるのがこの政策だと考えたからです。

単元プランシート (社会科 2年)

実施時期 2月～3月

単元名		第5章 開国と近代日本の歩み 第4節 日清・日露戦争と近代産業
単元の目標		○日清・日露戦争、条約改正などを基に、我が国の国際的な地位が向上したことを、我が国の産業革命、この時期の国民生活の変化、学問・教育・科学・芸術の発展などを基に、我が国で近代産業が発展し、近代文化が形成されたことを理解させる。 ○議会政治や外交の展開、近代化がもたらした文化への影響などに着目して、事象を相互に関連付けるなどして、議会政治の始まりと国際社会との関わり、近代産業の発展と近代文化の形成について、近代の社会の変化の様子を多面的・多角的に考察し、表現させる。 ○議会政治の始まりと国際社会との関わり、近代産業の発展と近代文化の形成について、そこで見られる課題を主体的に追究、解決しようとする態度を身に付けさせる。
評価 規 準	知・技	○日清・日露戦争、条約改正などを基に、我が国の国際的な地位が向上したことを理解している。 ○我が国の産業革命、この時期の国民生活の変化、学問・教育・科学・芸術の発展などを基に、我が国で近代産業が発展し、近代文化が形成されたことを理解している。
	思・判・表	○議会政治や外交の展開、近代化がもたらした文化への影響などに着目して、事象を相互に関連付けるなどして、議会政治の始まりと国際社会との関わり、近代産業の発展と近代文化の形成について、近代の社会の変化の様子を多面的・多角的に考察し、表現している。
	主体	○議会政治の始まりと国際社会との関わり、近代産業の発展と近代文化の形成について、そこで見られる課題を主体的に追究、解決しようとしている。

	学習内容	評価計画		
		知・技	思・判・表	主体
1次 (1時)	・帝国主義が進む中で日本がどのように条約改正に向けて動いていたかを理解する。 ・単元の課題 「日本はなぜ条約改正をすることができたのだろうか」 【課題把握】	●		
2次 (2時)	・日清戦争に至る流れと条約改正に与えた影響を、国際情勢と関連付けて理解し、説明できる。 【課題追究】【資料読解】		●	
3次 (3時)	・日露戦争が起きた経緯や条約改正に与えた影響を理解し、国際社会の動向と関連付けて考察し、説明できる。 【課題追究】【表現】		●	
4次 (4時)	・韓国と中国ではどのように政治の変化が起きたかを理解する。 【課題追究】	●		
5次 (5時)	日本の産業発展と文化の発達が生じた条約改正に与えた影響を説明できる。 【課題追究】		●	
6次 (6時)	単元の課題に対する振り返りを行いまとめることができる。 【まとめ】		○	○
7次	単元テストを行う。	○		

(7時)				
------	--	--	--	--

評 価 基 準	
B	A
条約改正ができた要因を明治時代以降の学習内容や資料を根拠として、多面的・多角的な視点から考察し、表現することができている。	条約改正ができた要因を明治時代以前の内容や資料を踏まえながら、多面的・多角的な視点から考察し、表現することができている。

第5章「開国と近代日本の歩み」第4節「日清・日露戦争と近代産業」

学びのきせき

2年()組()番 氏名()

1 はじめに～見通しをもって単元の学習に臨もう～

今後の学習で解決していきたい新たな問い

日本は、戦争によって、何を得て、どのような変化が起こったのか。

単元を貫く課題

日本はなぜ条約改正をすることができたのだろうか。

2月(26)日(水)単元の最初の時点での考え(1時)

日本が「大日本帝国憲法」を公布して、議会も開いたことで、文明国として見られるようになったから。

これからの学習で特に大切だと思うものにマルをしよう。

時	学習内容
1	欧米諸国との条約改正の動きを学んだ後、単元を貫く課題を引き受け、学習の見通しをもつ。
2	日清戦争が条約改正に与えた影響を説明できる。
3	日露戦争が条約改正に与えた影響を説明できる。
4	日本の東アジア進出が条約改正に与えた影響を説明できる。
5	産業の発展が条約改正に与えた影響を説明できる。
6	近代文化の発達に与えた影響を説明できる。単元のまとめをする。

2 単元の学習の途中で～授業の中で考えたことや友人や先生の話したことで心に残ったもの・大切だと思ったこと～

2月27日(木)	2時 日清戦争によって、清の面積はどんどん小さくなっていき、列強の国々の植民地が増えた。日本は、その賠償によって、軍は強化された。
2月28日(金)	3時 日露戦争は、日本とロシアが争った。イギリス、アメリカなどの多くの国が関与して起こった戦争である。戦費は倍増したにも関わらず、賠償金は少なかった。国民の不満が。
3月4日(火)	4時 韓国は、日本に支配されたことで、日本人と同化されていき、どんどん支那化が強められていった。中国は、革命によって、新たな権力者による政治が始まった。
3月7日(木)	5時 労働組合などの、欧米の文化を取り入れるなかで産業を発展させていった。工場法などの工場で働く人々を守るための法律もできた。

3 単元の振り返り(6時) (3)月(10)日(月)

この単元の自分自身の学習への取組(線の上に○を書こう。)

よい ←

単元を貫く課題について考えたことを複数の視点から書きなさい。

→ よくない

国内の産業の面では、欧米にもある労働組合や工場法の整備によって、欧米の国々から見ると発展していると思えたのではないかと思います。また、領土の面では、下関条約や、ポーツマス条約、韓国併合によって、日本が、徐々に領土を広げていったことも、欧米から見ると脅威になっていたと思います。義経戦争の際に、一番多く兵を出したことも、日本の発展をアピールすることにつながっていると思います。今後の学習や生活に生かしたいことやこれからも考え続けていきたいことを書きなさい。思います。

日本は、2つの戦争などによって、一気に立憲を強くしていきました。そんな日本が、産業の面で取り入れた労働組合などの、今でも残っている社会の仕組みや法律などに注目して、今後学習していきたいようにしたいです。